

執筆要領

1. 原稿の校正

1.1 論説, 論文について

- 1) 表題と投稿者名は和・英文とする。ただし、投稿者名のローマ字書きは、姓は大文字とし、名は第2字以下を小文字とする。
- 2) 投稿者名に続いて投稿者の属する機関名ならびにその英訳を書く。また、著者の希望によりE-mailアドレスを記載する。
- 3) 和文原稿の場合には、800words以内のAbstractを付ける。英文原稿の場合は500字以内の和文要旨を付ける。
- 4) 和・英文のキーワード(4語程度)を付ける。キーワードはAbstract(要旨)の次に記入する。

1.2 その他の原稿について

和文または英文の本文と投稿者名、所属機関名で構成される。

2. 文章と文体

- 1) 文体は口語常態(である体)、現代かなづかいを用いる。漢字は原則として当用漢字を使用する。ただし、固有名詞や学会で広く用いられている慣用の語はこの限りではない。また、本文中の人名には敬称を付けない。
- 2) 句読点は(。)(、)を用いる。
- 3) 本文中に外国語を挟むことはできるだけ避ける。ただし、生物の学名、適当な訳語がない述語、固有名詞などはこの限りではない。
- 4) 数字はアラビア数字を用い、数式には2行を用いる。文中に数式を挿入するときは、 $Y=a/b$, $\exp(-t/X)$ のように印刷に便利な書式とする。
- 5) 単位は原則としてSI単位系による。
- 6) 次の事項は投稿者が指定するものとする。
 - i) 数式、生物の学名等に対するイタリック字体の指定: 赤の下線
 - ii) ふと字体(ゴシック字体、ボールド字体)の指定: 赤で波形の下線
- 7) 誤りやすい文字はとくに注意して書くこと。とりわけ数式における添字(上付き、下付き)、ローマ字c, v, w, zなどの大文字と小文字、ギリシャ文字等は明瞭に識別できるように書き、できればその文字の上に、 \wedge , \vee , 大, 小, ギ等と赤で指定すること。

3. 原稿の書き方

- 1) 原稿は、1行の文字数を26文字(英文原稿の場合46words)としてワードプロセッサを用いて仕上げる。参考までに、1頁はA4版で26字×47行×2段=2,444字である。
- 2) 章は2. 節は2.1のようにゴシック体で書く。項目を列挙する場合は1), 2), ……のように書く。
- 3) 数式は、手書きでも良い。ただし、わかりやすく活字体で書く。
- 4) 原稿中に図、表および写真を入れる場合は、文字入力範囲内とし余白にはみ出さないよう配慮すること。図、表および写真は、図-○、表-○、写真-○のように書く。

4. 引用文献

引用した文献は引用順に番号を付け、以下に示す例に従って一括本文末にまとめて記載する。本文中には引用箇所を上付き数字で1), 2), ……として記入する。なお、出典名の表記はできるだけ省略しないことを原則とする。ホームページ(HP)を引用文献として参照する場合は、投稿時にHPのデータ・情報が最新のものであることを確認すること。(例)

引用文献

- 1) 三浦 清(1973): 深成岩類の風化に関する研究(第1報), 応用地質, Vol. 14, No. 3, pp. 87-102.
- 2) 都城秋穂(1965): 変成岩と変成帯, 岩波書店, pp. 58-87. (単行本の一部の引用の例)
- 3) 湊 正雄・小池 清(1985): 新版地質調査法, 古今書院, 161p. (単行本一冊全部引用の例)
- 4) 水谷伸治郎(1995): 地下処分の現状, 欧米諸国における研究の動向と地質環境, 放射性廃棄物と地質科学(島崎

英彦・新藤静夫・吉田鎮男編), 東京大学出版会, pp. 309-340. (編者の単行本の一部の引用の例)

- 5) Droste, J. B. (1956) : Alteration of clay minerals by weathering in Wisconsin Tills, Bull. Geol. Soc. Amer., Vol.67, pp. 911-918.
- 6) Carroll, D. (1970) : Rock weathering, Plenum Press, New York, pp. 81-115. (単行本の一部引用の例)
- 7) Harris, R. C. and Adams, J. A. S. (1966) : Geochemical and mineralogical studies on the weathering of granitic rocks, Amer. Jour. Sci., Vol. 264, pp. 146-173.
- 8) Tsukahara, H. and Ikeda, R. (1987) : Hydraulic fracturing stress measurements and in-situ stress field in the Kanto-Tokai area, Japan, Tectonophysics, Vol. 135, pp. 329-345.
- 9) Engelder, T. (1987) : Joints and shear fractures in rock. In Fracture Mechanics of Rock (ed., B. K. Atkinson) ,Academic Press, London, pp. 27-69. (編集者付き単行本の一部引用の例)
- 10) メイスン, B. (1970) : 一般地球化学, 松井義人・一国雅巳訳, 岩波書店, pp. 184-231. (翻訳本の一部引用の例)
- 11) Baise, L. G., Kaklamanos, J., Berry, B. M. and Thompson, E. M. (2016) : Soil amplification with a strong impedance contrast : Boston, Massachusetts, Engineering Geology, Vol. 202, pp. 1-13, doi : 10.1016/j.enggeo.2015.12.016. (オンラインジャーナルでページ付けがある場合の引用の例)
- 12) Royer, A., Montuire, S., Legendre, S., Discamps, E., Jeannet, M. and Lécuyer C. (2016) : Investigating the influence of climate changes on rodent communities at a regional-scale (MIS 1-3, southwestern France) , PLOS ONE, doi: 10.1371/journal.pone.0145600. (オンラインジャーナルでページ付けがない場合の引用の例)
- 13) 東京大学空間情報科学研究センター (2016) : Geocoding Tools & Utilities, <http://newspat.csis.u-tokyo.ac.jp/geocode/>, (2016年1月25日閲覧). (ホームページ (HP) を参照する場合の引用の例)

(本文中での引用例)

湊・小池³⁾ は……と述べている. Carroll⁶⁾ によれば……. ……とされている^{2)・7)}.

5. 図・表・写真

- 1) 図, 表等は整理されたものとし, 生のデータのみを多数載せることは避けること.
- 2) 図, 表等は, 原稿作成の際, 文章との構成, 編集を行うこと.
- 3) 図, 表は原稿のまま製版するので, 図等作成ソフト等で作成して仕上げること. 文字, 数字, 記号等は縮図を参考にして適当な大きさに書くこと.
- 4) 校正時の図, 写真の訂正, 修正は認めない.
- 5) 図, 写真は中央下部に, 表は中央上部に図表番号, 標題及び解説文等を付けること.
- 6) 図 (とくに地形図, 地質図等) の内容の大きさを示す場合には, 何分の1という表現は避け, 必ずスケールを入れること.
- 7) 写真原稿は, カラー写真をモノクロとして印刷すると不鮮明になるので, 白黒写真を用いることが望ましい.
- 8) 写真中に直接文字を入れる場合には, 図作成ソフト等を用いて入力し画像データとすること.

6. 英文原稿

- 1) 英文原稿は語学的に難点のないことが必要であり, 投稿者の責任において完全を期する.
- 2) 文中でローマ字書きした日本の地名, 地層名等は文末にアルファベット順に表示し, その原名 (漢字) を示すこと, ただし, 一般に周知のものは省略してよい.
- 3) 英文原稿には, 英文要旨のほかに日本語による要旨を添える.
- 4) 上に規定したほかは, 和文原稿の規定に従うこと.

7. 校正

- 1) 著者校正は, 原則として初校で1回行う.
- 2) 著者校正の際は大幅な変更は認めない.
- 3) 著者校正の期間は原則として1週間以内とする.
- 4) 再校以降は原則として編集委員会が行う.